

ガット報告書(1992年2月)

阿部・有野・佐々木

発表の流れ

第3章：国内環境問題と世界貿易

第4章：汚染物質の拡散と多国間協定

第5章：保護政策と環境

第三章

「国内」環境問題と世界貿易

はじめに

1. 競争力の問題
2. 他国の環境問題の優先順位への干渉
3. 貿易政策の役割

はじめに

「国内」環境問題は

- ・基本的に国内政策によって解決可能
- ・差別的貿易政策によっては解決にならない

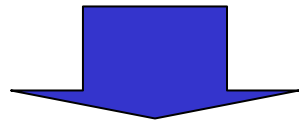
しかし、問題が国際化

- ・企業の競争力に関するもの
- ・他国の環境問題の優先順位への干渉

1. 競争力の問題

国際貿易の拡大によって

- ・ GNPにおける貿易比率の増加
- ・ 海外投資の劇的な増加



不公正貿易を排除する動き

厳しい競争の中で不公正という主張

環境問題の存在

環境政策が製造費用に影響を与える

国内企業から

「同じ土俵」での競争要求

環境保護団体の主張

- ・環境ダンピング
- ・公害移転と雇用喪失

「同じ土俵」で競争するための手段

- 高い環境基準に合わせる
- Dirty Processの製品に対する特別関税
- 国内企業に対してより高い環境基準に対応するための補助金

- 高所得国は低所得国よりも

厳しい環境基準を設定する傾向

- 経済成長が環境汚染を増大させる訳ではない

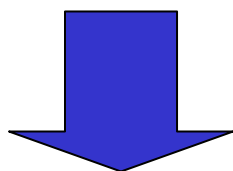
そもそも、環境基準の相違以外にも競争力に
影響を与える要因がある

競争力の問題を正しく把握

- 環境基準の差によって

投資先の転換は起こらない

環境コストを削減しても他の要素で相殺される



環境基準の低い国の方が

企業の競争力がつくとは言えない

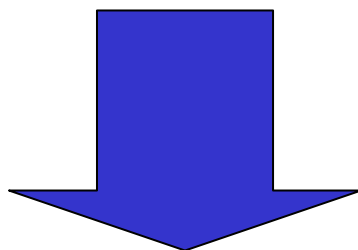
競争力：より高い基準への反対

- ・生産に伴う汚染のコントロール
 - ・立場が違う
- ・消費に伴う汚染のコントロール
 - ・生産地とは無関係に厳しいコントロール
 - ・競争力に与える摩擦は削減

健康と安全についての基準

貿易紛争が起こりやすく、かつ激しい

- ・消費者心理
- ・科学的根拠
- ・国によるリスクへの対応の相違



多国間の懲戒規定・公正な紛争処理機構が必要

2. 他国の環境問題の優先順位への干渉

環境問題の優先順位について自国の主張に
他国が従わない時

他国での生産過程に口を挟む

例) マグロ・イルカ
たいまいの甲羅

しかし、一方的に他国の貿易の権利を
妨害することはできない

解決策

- 消費者行動

環境的に安全と認められた方法で作られた製品のみを買いやすくする

例) エコラベル

- 多角的貿易協定

問題となっていることについての基準を設定するために政府間で協力する

例) MEA

3. 貿易政策の役割

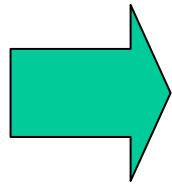
貿易政策は国内環境問題に対して**最適ではない**

競争力について

- ・貿易拡大を妨害
- ・外国が環境政策を変更するとは限らない
- ・低所得国の輸出品に打撃

他国からの優先順位に関する干渉

- ・相手国の環境政策を変更させる最高的手段でない



- ・各国が同様の行動をするリスク
- ・ガット上の義務の遵守についての問題

GATTの主張

**国際競争力を理由にした一方的措置は
いかなる理由でも認めるべきではない！！**

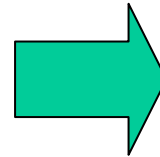
4章 越境汚染と多国間協調

越境汚染

・酸性雨

・オゾン層の破壊

・温暖化



政府間の協力が不可欠

考慮すべき問題:

効率性と衡平性

貿易制限と環境保護

森林破壊

木材の**輸入制限**による森林保護

温暖化

森林破壊とCO₂吸収量減少の関連性

輸入制限によって

先進国：森林保護によりCO₂吸収量確保

途上国：先進国のCO₂排出削減を主張

熱帯林保護の議論

1) 輸入国(とりわけ先進国)

輸入禁止又は輸入制限。

2) GATT

熱帯諸国の森林伐採削減に見合う補償金。

自由貿易体制維持を主張。

熱帯林の破壊を遅らせる最も効果的な方法

雇用増加・所得増加

例えば、経済政策の改革や貿易の推進によって

途上国にとっては経済成長をすることが環境破壊を防ぐ効果的な方法。

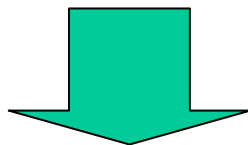
自由貿易を推奨するGATTの主張

Box5 熱帯産木材の貿易制限

熱帯産木材の輸出制限の理由

商業目的の伐採搬出が

1. 原住民の土地を奪う。
2. 種の多様性を損ない、動植物の絶滅を助長する。
3. CO₂の吸収を減少させる。



しかし、熱帯産木材輸出の制限により森林破壊が減ることはほとんどない。(GATTの主張)

理由

- 途上国で生産される丸太の0.5%しか丸太の形で輸出されない。
- 丸太の輸入禁止によって、パネルへの加工が増加する。
木材やその他の資源の無駄が多くなる。(技術・管理水準が低いから。)
- 丸太と加工された木材の合計は、途上国で切り倒される木の1%にも満たない。
- 輸入禁止・制限により、地元での森林保護と植林のインセンティブが減少する。
- 途上国で切り倒される木の4/5が燃料として、直接又は木炭の形で使われる。
灯油のような燃料を買う経済力がない。十分な雇用機会がない人々を扶養するために土地を開墾する必要がある。(しばしば焼畑式)
- 世界の木材の半分くらいが工業国産。工業国の森林管理も重要。
温室効果ガスの80%排出

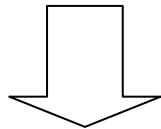
GATTの主張

- 環境保護目的の一方的貿易措置は得策ではない。
- 自由貿易体制の悪しき前例をつくってしまう。

GATTの主張の論理

貿易制限・禁止 + 環境保護

否定



例) 熱帯林保護Box. 5

自由貿易 + 環境保護

次に 多角的協定(MEA)における 貿易措置

- ・越境汚染に関して、多国間協力の方が一国の行動よりも優れる。

MEAへの参加

参加を促すためにインセンティブを与えることが重要であるが、そもそもなぜ参加しないのか？

協定に参加しない4つの理由(主に途上国)

- ・科学的証拠に説得力がない。
- ・協定が扱う問題の優先順位が低い。
- ・責任の割り当てに異議を唱える。
- ・他国の努力にただ乗りをしようとする。

では協定への参加国を増やすことは困難なのか？

MEA参加国を増やすのは無理なことではない。 cf. モントリオール議定書批准国数：184カ国

(2002年11月28日現在)

一般的に、

・協定への参加を強制することはない。

・問題解決のために一国が果たさなければならない役割は大きなものではない。

Cf. 参加しないと政治的問題が起こりかねない。

MEA参加の促進

～ アメとムチの議論 ～

インセンティブ

プラス(インセンティブ)

マイナス(ディスインセンティブ)

持続可能な国際協調のためには

プラスのインセンティブが最良の手段

貿易措置条項

プラスのインセンティブの例

代表例

- ・資金援助
- ・技術移転

さらに

- ・対外援助の増加
- ・債務の軽減化
- ・貿易障害を減らす 等

マイナスのインセンティブの 例

「MEAの対象品目とは無関係な製品の輸入制限
(などの貿易措置)」

しかし

もし商業上の摩擦が生じれば今後協調を促進する可能性が低下

例) 途上国の参加を促すためには資金・技術援助のようなプラスのインセンティブの方が効果的

貿易措置条項の目的

締約国・非締約国間の貿易を禁止すること。

協定の効果を極力高めるため。

環境問題の解決のため。

環境問題に直接関係する製品の貿易の禁止。

インセンティブと貿易措置条項の区別

- ・ 厳密な意味での区別

		製品の環境問題との関係
インセンティブ	プラス	直接関係しない
	マイナス	
貿易差別措置		直接関係する

は多種多様で、 は限られている。

広義のアメとムチ

	インセンティブ	項目
アメ	プラス (インセンティブ)	<ul style="list-style-type: none">・資金援助・技術移転/援助・対外援助の増加・債務の軽減化・貿易障害を減らす 等
ムチ	マイナス (ディスインセンティブ)	<ul style="list-style-type: none">・資金援助の打ち切り・技術協力の打ち切り、・MEAの貿易差別措置

5章 保護貿易と環境

導入部

農業と環境

環境政策と貿易政策

○農業、林業、運輸、エネルギーの各分野における多くの国の政策が、結果的にせよ環境破壊へと繋がっている。

政策改革

所得増大と環境改善が目的



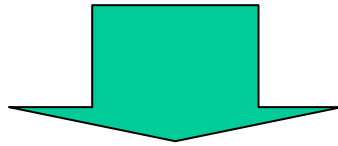
1つのケースとして、
先進国における農業政策
(貿易と環境の問題)

農業と環境

現代の農業生産によって自然環境が悪化している。

化学肥料・殺虫剤の使用による水、大気、土壌汚染

食物に残る化学肥料と殺虫剤の問題 etc...



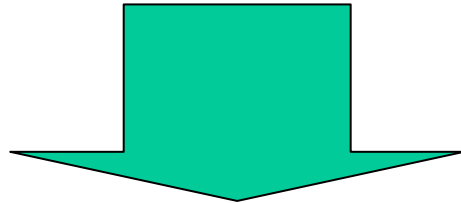
貿易の自由化によって、これらの状況が改善するのか？

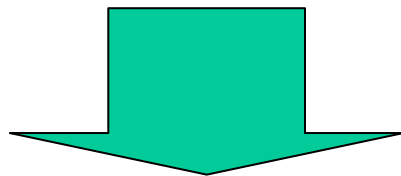
農産物の貿易自由化へ

- 現状の食糧生産政策の歪み

高所得国 = 農産物の価格が高い
様々な補助金が存在

低所得国 = 農産物の価格が低い

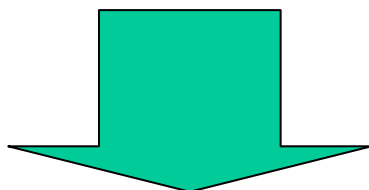




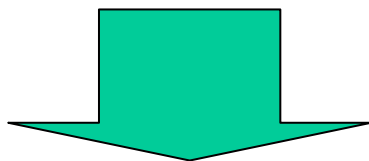
保護主義的な国における補助金の削減

+

市場参入の促進



高所得国から低所得国への
農産物の生産移転発生



高所得国、低所得国共に、所得が増大

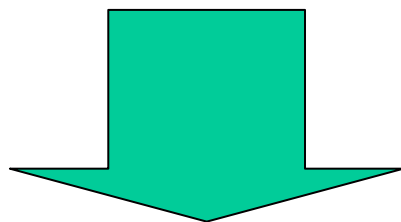
自由貿易へ

貿易自由化の効果

- 農産物貿易自由化による環境への効果を予測することは難しい

一方で、

- 様々な影響を予測する研究が存在



例) 化学肥料と殺虫剤の使用に関する予測



農産物価格と強く相関している

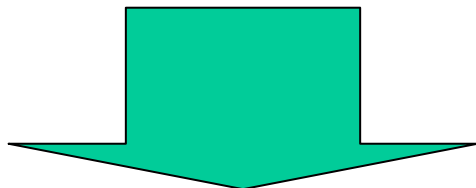


生産者価格の低い(高い)国は
化学肥料の使用量が少ない(多い)。

農産物貿易の自由化

農産物価格の高い国(A)から

低い国(B)への生産転換



< 環境への効果 >

Aでの化学肥料使用量削減プラス効果

>

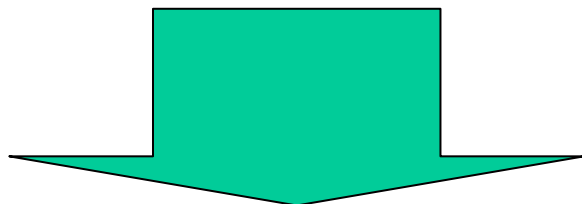
Bでの化学肥料使用量増大マイナス効果

農業生産の転換は、

森林破壊を巻き起こすのでは？

- 労働と資本の投入は、農産物価格に対して反応するが、耕地面積の大きさは反応しない。

(アルゼンチン・ブラジルetc)



- 農産物価格上昇に対する反応としての耕地拡大は、森林破壊の大きな要因ではない。

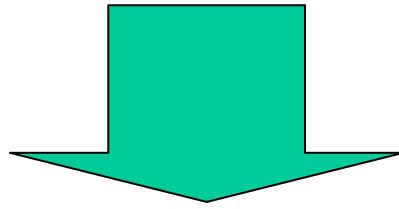
高所得国における保護主義的な
農業政策を自由化すれば、

生産過程における化学肥料の使用量減
少

食品、自然に残留する化学薬品の減少

森林破壊スピードの緩和

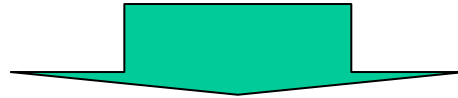
有効な土地利用



農産物の貿易自由化によって、
新たな環境政策を導入しなくても、
世界の環境の質は良くなる。

環境政策と貿易政策の関係

- 貿易と環境の関係について高まる関心



新らしい保護主義の発生の可能性

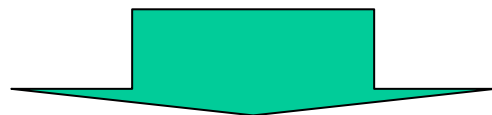
環境政策の導入に際して、(3章より)

→ 同じ土俵上での競争を求める国内産業の声

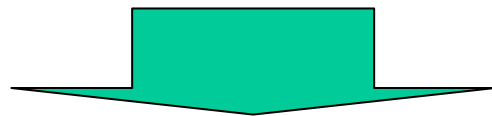
= 保護貿易を求める声

不適切な政策への政治的援助の問題

- 厳しい環境規制に従わざるを得ない企業



環境保護団体との衝突を避け、
彼らにとっての“公平”（効率性）を政策の条件にしようと試みる



真に公平な政策選択ができない。

→ 正しい環境政策が採用されない

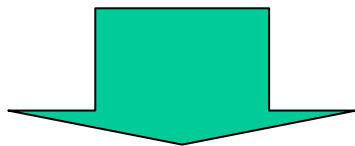
環境政策のジレンマ

- コストのかかる環境政策に対して、その政策の対象企業が政治的援助をすると…

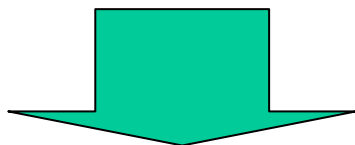


更なる不適切な政策の採用へ

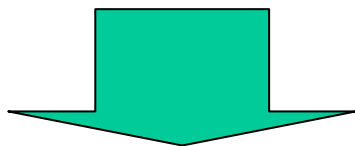
短期的に見れば環境に良いかもしれないが、
中長期的に見ると環境に悪い。



効果的な環境政策が政治的に実行不可能で、
それよりも効果の小さい政策さえもGATTルール
によって実行できないと、



GATTのイメージが、
「環境には不都合」となってしまう

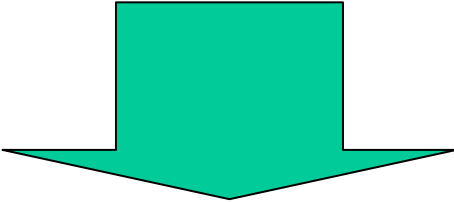


そうかといって…



そうかといって・・・

- 効果の小さい政策を法制化するために、GATTを改正しようとする、

- 
- 各国における、効果的な環境政策を採用しようとするインセンティブが消えてしまう。